

ひかりのこ

10月園便り

聖ミエル幼稚園
2018年9月21日

月主題：取り組む

「大地震」

9月6日未明、眠りについている私たちを襲ったのは、震度5～6の大きな地震でした。千歳市に近い厚真町や、安平町は、震度6～7の地震にみまわれ、多くの方々が亡くなりました。今も復興のためにたくさんの方々が働いています。観光業もキャンセルが相次ぎ、北海道に多くの影響を及ぼす災害となりました。

地震が起きた時間、私は夫とともに、眠りから起こされ、まだ動かない頭で別の部屋で寝ている次男の名前を呼んでいました。すると、ライトを手に持った次男が、「外に逃げよう！」と呼びに来てくれました。次男を心配していたはずが、次男はとても冷静で、とても頼りになりました。

6日から7日にかけて、私の住んでいる新琴似は停電でした。6日の夜に、中央区で一人暮らしをしている娘が心配になり、夫と次男と一緒に車に乗り、手回しラジオを持って、娘のアパートを訪ねました。不安なら我が家に連れて行くかと思っていました。ところが、娘は「夜は寝るだけだから大丈夫。明日、仕事があるから実家には行かない。」と言うのです。手回しラジオを置いて、「おやすみ。」と帰ってきました。不安で泣いているのでは、と心配した私は、肩透かしを食ったみたいでした。

いつまでも小さな子どものように心配していたわが子たちが、もう私たち夫婦よりずっと頼りになる大人になっていたことを改めて感じました。

6日の深夜の札幌市内は、とても不気味でした。ほとんどの信号が消えたままで、まるで田舎道を走っているみたいでした。ずっと札幌に住んでいる私にとって初めての大きな災害でした。

幼稚園は、ちょうど5日に、地震の避難訓練をしたばかりでした。その時、「怖いよーって泣いていると、先生の声が聞こえなくなって逃げられなくなるよ。みんなを、神様がきくと守ってくださる。泣かないで、先生のお話をきちんと聞いてくださいね。」と、お話をしました。そして、この大地震。地震の時、お父さんやお母さんに「頭を机の下に隠すんだよ。」と教えてあげた年長さんもいたそうです。

幼稚園も、60年以上たっている教会も無傷でした。神様に感謝です。6日、7日、10日の三日間、幼稚園はお休みをいただきました。10日には、出勤できた先生たちで、幼稚園の各部屋の安全点検を行い、7日には、幼稚園を再開しました。子どもたちの中には、お母さんから離れない子もいましたが、ほぼみんな元気に登園し、今では何事もなかったよう

す。

台風に次ぐ地震で、遠足も中止となりましたが、子どもたちは、とても楽しそうに幼稚園で過ごしています。私たち教員は、改めて、この子どもたちの豊かな生活を守るために、あらゆることを想定して、防災に努めていきたいと考えています。

園長 渡部 良子

キリスト教保育

「地震のあとで」

9月6日未明に発生した地震で、胆振地方を中心に40人以上の方が亡くなり、大きな被害を受けました。札幌市内でも多くの家屋が被害を受け、長時間の停電、道路の陥没などもあり、自分も被災者なのかもしれないと感じる日々を過ごしました。

いま思うことは、自然の前に私たち人間はあまりにも小さく無力だということ、そういう私たちが生きて行くためには、助け合うことしかないのだということです。災害が起こると、いつも人間の本性が露わになります。この度の地震後も、心ないデマが流され、それを信じた人びとがガソリンを買うために何キロも列を作ったり、スーパーで買い占めが起こったりしました。その反面、信号機が止まった交差点では、譲り合って車を走らせたり、避難所には早くからボランティアが集まり、人の暖かさに触れることもありました。

災害の多い日本では、事前の備えが欠かせないことも骨身に染みしました。水や食料など、物の備えはもちろんのこと、さらに大切なのは心の備えだと思いました。例えば、緊急時にも平常心を失わないこと、デマに振り回されない冷静さ、いざという時に、いろいろなものを分かち合える優しさ、そして、私たちは何が起こっても、愛され、守られているのだという確信です。

停電の夜、街灯やマンションの明かりが消えて暗闇が訪れた時、そこに満天の星空が現れました。何人かの方からも、あの時の星はきれいだったと聞きました。その星空は、文明の利器が役に立たなくなった時に、やっと私たちが気づく人間のはかなさと、それを守ろうとされる神さまの存在を示しているように見えました。

チャプレン 司祭 下澤 昌